

八代神社の1ヶ月

妙見祭は、11月22日のお下り、23日のお上りが知られていますが、八代神社では、10月31日から12月1日にかけて妙見祭に関連する様々な神事が行われていることはあまり知られていません。どのような神事が行われているか、八代神社の1ヶ月を順を追って紹介します。

10月31日 ^{しめなわ}注連縄立て

八代神社正面鳥居、境内にある参集殿（2ヶ所）、中宮、塩屋八幡宮に注連縄を張ります。



竹に注連縄を結びつけます



鳥居につけられた注連縄

11月1日 ^{しめ}注連おろし

氏子総代や年番代表らが集まり、神事が行われた後、これからのスケジュールの確認などが行われます。その後、獅子組と神馬奉納団体との顔合せが行われます。



氏子のお祝い



獅子組と神馬奉納団体が一堂に集まり顔合わせ

神社には、前年12月1日の「注連納め」で獅子組が納めた箱があり、中には雄雌の獅子頭やドラが入っています。その獅子頭を着用して獅子舞の奉納が行われます。



前年の12月1日の紙で封印された獅子組の箱



箱から獅子頭などを取り出します



箱の中に入っていた獅子頭などを使って獅子舞を奉納します

11月11日 ^{かざりうま} 飾馬揃い

妙見祭に奉納される飾馬が一堂に揃う日です。氏子総代らが馬の毛色や年齢を記録し、背丈の測定を行います。その後、お祓いをしてもらいます。

江戸時代、飾馬は11月11日に城内の厩で見分が行われ、各馬に飼料や口取り（馬の口につけた縄を引く人）の衣装が渡されていました。その後、妙見祭当日の朝に馬具等を渡され、準備をして宮地に向かって出発していました。現在の馬揃いはその名残りでしょう。



馬の計測の様子



馬のお祓い

11月15日 大祭一日祭

妙見祭の日まで何事もなく神事が執り行われるよう祈念します。翌日が大祭二日祭で、3日目が献幣式となります。

神事の様子



11月17日 ^{けんべいしき} 献幣式

神社本庁より^{けんべいし} 献幣使が来て^{へいぼく} 幣帛を捧げる神事



^{しんせん} 神饌 (神に供える飲食)



神饌を神前に供える



^{たまぐしほうてん} 玉串奉奠

献幣使は、神社の大きな祭礼の際、幣帛（布帛・幣帛料として金銭を紙に包んだ金幣など）を捧げるため、神社庁より派遣される使者のことです。布帛は木綿や絹のこと。

11月21日 ^{みこし} 神輿運び

境内にある神輿蔵から神輿を運び出し、^{はいでん} 拝殿奥の^{へいでん} 幣殿に安置します。

11月21日深夜 ^{みやうつ} 宮遷し式

21日の深夜、神殿のご神体を^{みこし} 神輿に^{ううつ} 遷す宮遷しの神事が行われます。この神事は宮司以外の人は一切見ることができないため、幕を下ろして行われます。

その後、翌日のお下りの時の火王・水王・風王の順番を占う神事が行われます。占いの結果は、お下りの前に氏子総代の前で発表されます。



マスクと手袋をして神事に臨みます



神事の様子は誰も見ることができません



火王・水王・風王の順番を占う神事

11月22日 お下り

神輿^{みこし}の出発の神事である発輦祭^{はつれんさい}、神馬^{しんめ}のお祓い^{ばらい}の後、神輿がお旅所の塩屋八幡宮に向けて出発します。神輿が塩屋八幡宮に着くと着輦祭^{ちやくれんさい}が行われ、翌日の出発まで境内に安置されます。



火王・水王・風王の順番を決める占いの結果の入った封筒を開けて発表します

年番^{ねんばん}を勤める氏子の人たちのお祓い

神馬のお祓い



お下り中の神輿

行列を迎える亀蛇

お旅所である塩屋八幡宮に到着

祭りの前日「ゴヤ参り」

妙見祭の前夜は、腰に注連縄を巻き、「ホイホイ」と掛け声をかけながら参拝して縄を神社の欄干などに結び付けて無病息災を祈願する通称「ホイホイ」がさかんでした。3年続けて参ると病気をしないとか途中でしゃべったり、後ろを振り向いたりすると効き目がないといわれました。

古くは男性は裸、女性は白装束で参ったそうです。



11月23日 お上り

塩屋八幡宮から八代神社へ

神輿^{みこし}を中心とした神社の行列に、旧八代町の町々から出される笠鉾^{かさぼこ}や亀蛇^{きだ}、学校のOB会などから出される飾り馬(以前は氏子町内が奉納)などが一緒にお旅所の塩屋八幡宮を出発し、八代神社へ行きます。



塩屋八幡宮での発輦祭^{はつれんさい}

八代駅

八代神社に到着



ちやくれんさい
着輦祭



中宮に向けて出発

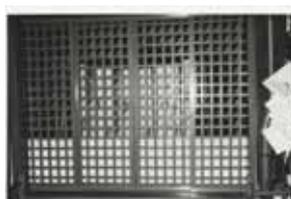
神社に着くと拝殿で着輦祭が行われます。しばらく休憩の後、発輦祭を行って神社を出発し、砥崎の河原を経て中宮へ向かいます。大正11年にお下りが始まるまでは、八代神社と中宮間の神幸行列が行われていました。



中宮での神事



再び神社に戻ってきた神輿



着輦祭の後宮遷し式



神輿を蔵に戻す

中宮へは獅子と神馬がお供します。神事後獅子舞が行われますが、ここでは新人が舞うことになっています。すべての行事が終わると行列は再び神社に戻り、宮遷し式が済んだ後神輿は蔵に戻され、お上りが終了します。

11月24日 大祭報賽祭

妙見祭が滞りなく終了したことを神前に報告し、感謝する神事です。

12月1日 大祭終了祭

氏子総代らが集まり、神事が行われます

12月1日 注連納め

続いて注連納めの神事が行われます。11月1日の注連卸の時に神社から受け取ってきた獅子頭などの入った箱に注連納めの日付けが書かれた紙で封をして再び神社に納めます。

また、この日に来年の神馬奉納者が決定します。

獅子頭などの入った箱を神殿に納める

